

<今朝の聖書から>

村上定幸

【ヨハネの誕生】今朝の箇所は“ヨハネの誕生の出来事”から始まります。ごく平凡な書き方で、すなわちどこにでもありそうな一人の誕生に関する祝いという形で書かれています。2 節の、“おおいに慈しまれた”という言葉も、“慰めを彼女に大きくされた“ということで、ごく普通と言って良いでしょう。エリザベトがもう年とっていたことを知っている方も多いと思いますので、良いことがあった時に、ますます神様の恵みが大きく見えたことだと思います。

【エリザベトとザカリヤ】これは両親の名ですが、共に喜びに浴したことでしょう。けれど、周りの人々の喜びとは少し違ったことが分かります。つぎに、その名をめぐっての記事がありますが、よく分かります。家柄を重んじ、慣習を重んじ前例を重んじたら、当然ザカリヤとすべきです。ここでエリザベトは“違う”というからです。夫が天使から聞いていたことをエリザベトも知っていたことが分かります。ヨハネという名は、特別な名ではありませんがザカリヤ家には一人もいなかったということでしょう。近所の人たちの喜びも、神様の恵みによるものでしたが、共に喜ぶことは出来なかったのです。65 節に“近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった”と、我々にも問いかけるように書かれています。

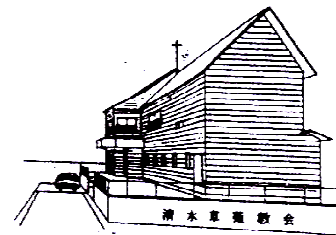
【もろさを表す信仰】私たちだって、何か良いことがあった時には、神様を崇めることをすると思います。それでは、罰を受けて口が利けなくなっていたザカリヤの喜びとは少し異なると思うのは何故でしょうか。同じ幸な出来事に対して、恐れを抱かざるを得なかった“近所の人々の喜び”は一体何だったのでしょうか。おそらく、どの程度主が中心にあったかということで、説明が出来ると思います。十か月の間ザカリヤは離せなかった。それが、64 節の素晴らしい御言葉になって現れます。“すると、たちまちザカリヤは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた”とあります。不信仰によって沈黙させられた人が、御霊の力によって、神の人に換えられたということになるでしょう。近所の人々は不信仰のままだったのです。

【言い表せる不信仰】ある時には、不信仰は雄弁にします。教会の中でもたくさん聞くことが出来るというよいと思います。“我ながらこの教会はなっていない”、“神を信じていたってなんの役にも立たなかった”、“信仰者といっても生身の間人だ”などなど、信じきれない信仰者の言い分は噴きあがっているような時もありますし、黙った黙想(黙祷ではなくて、激しくいろいろのことに気を回す)することもあります。この点で“恐れを抱く”ということが起こったのです。

【アブラハムの神】“我らの父アブラハムに立てられた誓い。こうして我らは、敵の手から救われ、恐れなく主に仕える”とザカリヤは讃美します。礼拝を守らず、様々な言い分で神の前から遠ざかろうとします。これは敵です。71 節に“それは、我らの敵、すべて我らを憎む者の手からの救い”とある敵、すなわち試みから、我々を守ってくれるというのです。これがアブラハムの神であり、主イエスの神、そして私たちの神だと教えているのです。“ザカリヤの讃歌”が続きますが、どんなにこの歌が価値あるものか、口が開き舌がほどけたとき、雄弁な人であったことから神の言葉の人に変えられたことを思いましよう。

週報

2011年 12月 18日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042